

令和元年 7 月
筑波大学

令和 3 年度（2021 年度）一般選抜における 大学入学共通テスト「英語」の配点について

はじめに

筑波大学は、令和 3 年度（2021 年度）一般選抜（個別学力検査等前期日程・後期日程）における、大学入試センターが運営する「大学入試英語成績提供システム」に参加する英語資格・検定試験（以下「資格・検定試験」という。）の活用方法について平成 31 年 3 月に公表しました。

令和元年 6 月に大学入試センターから、令和 3 年度大学入学共通テストの試験時間や配点及び問題作成方針が発表されました。大学入試センターの発表では英語の「リーディング」と「リスニング」の配点が均等となりましたが、各大学の入学者選抜においてどの技能にどの程度の比重を置くかについては各大学の判断に委ねられました。

そこで、筑波大学で利用する大学入学共通テスト「英語」の「リーディング」と「リスニング」の配点比率を公表します。

なお、既に公表した資格・検定試験の活用方法に変更はありません。

大学入学共通テスト「英語」の配点比率

大学入学共通テストの英語では、リーディング 100 点、リスニング 100 点が素点となっていますが、筑波大学では、これまでの大学入試センター試験と同様に、リーディングとリスニングの配点比率を 4 : 1 とします。具体的には、リーディング 160 点満点、リスニング 40 点満点に換算し、合わせて 200 点満点とします。

この配点比率は、一般選抜における全ての選抜方式及び全ての学群・学類で共通です。

（補足説明）

この配点比率は、大学入試センター試験において長期間にわたって維持されてきました。それを大学入学共通テストの実施に合わせて突然大きく変更することは、高校教育、とりわけ 2 年生の英語学習に大きな影響を与えるおそれがあります。高等学校では現在、新しい学習指導要領の実施も視野に入れながら、いっそうの英語教育の改善に尽力されていることを承知しています。

そのため、大学入学共通テストが導入される令和 3 年度入試においてはこれまでどおりの配点比率を採用し、それ以降については本学の入学者選抜方針、英語教育についての方針、他大学の動向等を踏まえ、引き続き検討を続けることとします。変更する場合は、事前に予告します。

大学入学共通テスト「英語」の点数（まとめ）

①大学入試センターから提供されたリーディングの成績（100点満点）を1.6倍した160点満点、リスニングの成績（100点満点）を0.4倍した40点満点とし、合計200点満点に換算します。

②200点満点に換算した英語の成績に、資格・検定試験の結果をCEFR対照表に基づくレベルごとに最大20点を加えます。

③加点はCEFRのC2レベル20点、C1レベル10点、B2レベル5点とします。（B1レベル以下は加えません。）

④加点の結果、満点の200点を超える場合には、すべて200点として扱います。

⑤資格・検定試験を受験していない場合でも満点の200点を取ることが可能です。

⑥200点満点に換算した大学入学共通テストの英語の成績に、CEFR対照表に基づくレベルごとに加算した合計点（200点満点）を「大学入学共通テスト英語の点数」とし、それぞれの選抜で利用します。

（例）大学入学共通テストの英語の配点を100点としている学類：「大学入学共通テスト英語の点数（200点満点）」を0.5倍し、100点満点に換算します。

※資格・検定試験の受験は、出願資格とはしません。

※「大学入試英語成績提供システム」に参加するすべての資格・検定試験について、その成績を大学入試センターから提供を受けて利用します。

※大学入学共通テストで英語以外の外国語を受験した場合は、加算の対象とはしません。